



8月24日、25日 鵜川にわか祭



8月24、25日は鵜川のにわか祭。武者絵が描かれた「にわか」が「やっさい」の声とともに勇壮に港町を駆け抜けた。
25日未明には海瀬神社の境内にすべてのにわかを終結。「我こそが弁財天の婿なり」と拝殿に向かって何度も突進を繰り返した。

【写真】(上段左)町中を猛スピードで駆け抜けるにわか。(中)町中を巡行し、見卸しの浜に戻ってきたにわか、コマのように激しく回転する。(右)山田川河口の鵜川大橋では直前までの激しさから一転、水面に影を映しながら静かに進む。(下段左)海瀬神社境内に会した各町内自慢の9基のにわか

9月16日 柳田大祭

素朴なろうそくの光が神輿を照らす。

柳田の白山神社の祭り、柳田大祭は9月16日に行われた。白山神社をはじめ、日枝神社・金分神社・火宮神社・日宗屋神社の5社の神輿がキリコの先導で番場(お旅所)に向かった。

柳田のキリコはろうそくの素朴な光が魅力。野田の大キリコをはじめ、キリコが大型であるのも特徴。今年は台風の影響で、金分神社のキリコのみ運行された。

キリコの担ぎ手は、昨年引き続き金沢星稜大学の学生58人が務めた。午前に能登町入りした学生らは、能登のキリコ祭りや伝統について学んだ後、神社でお祓いを受け、万全の体勢で祭り本番にのぞんだ。

午後11時、番場にキリコと神輿が到着する頃には、たいまつに火が灯され、打ち上げ花火も夜空を彩った。

翌17日には、柳田山村開発センターで能登町の活性化策について討論が行われ、星稜大生は学生ならではの視点で地域振興について意見交換した。



▲金沢星稜大学の学生が金分神社キリコの担ぎ手を務めた

▼キリコに照らされ、5基の神輿が番場(お旅所)に並んだ



「能登再生フィールド学」合同セミナー開催

学生200人が能登再生について語る



持木町長は「若い力で能登を元気に」とあいさつ

8月17日、役場能都庁舎で「能登再生フィールド学」合同セミナーが開催され、県内外の大学から約200人の学生が参加しました。

セミナーでは、各大学の研究内容が紹介されました。金沢星稜大学の池田ゼミは、15年前から能登で活動が続いています。学生が地域を調べ、実際に足を運び、地域の人と学生が協働する活動が核です。穴水町のボラ待ちやぐら復活に関わった事例が紹介されました。ゼミ生の1人は活動について、「楽しく、社会に出たときに役に立つ。これからの自分が見えた」と振り返りました。

金沢工業大学の谷研究室は、都市計画を専門としています。谷研究室は県内の重要伝統的建造物群保存地区(重伝建)のうち4地区の認定に関わってきました。

明治以降、太平洋側を中心



に開発が進む一方、日本海側には伝統的な町並みが比較的多く残りました。重伝建認定ですぐに町は良くなるものではなく、地域に関わり続けることが大切であると述べられました。

地元代表からのメッセージとして春蘭の里実行委員会事務局長の多田喜一郎さんと㈱ムラビト・ビジョン代表の山崎昭宏さんが、学生らに自身の活動や地域との関わりについて話しました。

昼食は弁当が配布されました。受け取った弁当を食べる店は学生自身が決めます。地図を片手に商店街を歩く様子が見られました。学生を迎え入れた店主は、地域の紹介をしたり、学生の研究内容を尋ねたりして、交流を楽しみました。



午後からは柳田植物公園で開かれている「ござれ祭り」に参加。野田の大キリコ、姫の袖キリコ、上町の万敷キリコなどにそれぞれ分かれ、地域の人とともに能登の祭りを体験しました。



～五感まるごと能登づくし 秋のイベント～

第4回能登きのご祭り2013

〈日時〉10月20日(日) 10:00～14:00

〈場所〉柳田植物公園特設会場

〈内容〉

◆きのこの村 役場

(総合案内など)

◆きのこの村 1丁目

(きのこ品評会、きのこ販売)

◆きのこの村

五感まるごと市(各種食のテナント)

- ・J A内浦町(新米コシヒカリ、産直野菜など)
- ・日本海倶楽部(地ビールなど)
- ・柳田植物公園(きのこ汁、きのこラーメン)
- ・能登牛飼育販売(能登牛ブロック丸焼き)

そのほかのテナントも出店予定!



◆林業の村

能登森林組合(薪、林業道具販売など)

◆能登きのご&能登牛ランチ

(先着150食、1500円)

※要予約(10月7日(月)から受付予定)・柳田植物公園 レストラン PIKKORO ☎76-1680

◆凧あげの村

「全国凧あげ能登大会」を同会場で開催

※内容は変更になる場合があります。



☎きのこ祭り実行委員会事務局
(ふるさと振興課内) ☎62-8532